令和６年度（2024）社会福祉法人すぎやまの家　報告

基本方針

法人理念より『障害のある人もない人も一人ひとりを主人公に』

基本的姿勢

１. 支援に対する基本的姿勢

①　職員視点ではなく、利用者視点で考える

②　安心安全のための環境整備をおこなう

→昨年度入所施設からグループホームへ地域移行支援を実施した利用者が入所施設へ戻ることなく生活ができています。利用者に合う環境の提供ができていると考えます。

２. 人材に対する基本的姿勢

①　人材の採用・育成・定着に向けた取組をおこなう

②　中長期的な視点で職員構成を考える

→新規採用について、就職フェアや職場説明会等に積極的に出席したものの人材確保には繋がらず縁故関係でのアルバイト採用のみとなった。

３. 地域に対する基本的姿勢

①　地域共生を考える

②　信頼と協力を得るため、地域で積極的に活動する

③　他法人・関係機関・行政等との連携を図り、地域課題に寄与する

→『令和６年度滋賀県事業者の協働化・大規模化等による職場環境改善事業』高島ふくしデザインセンター構想に参画し、4 法人で職員採用を含めた高島市の課題を模索し始めた。

４. 経営に対する基本的姿勢

①　法令等を遵守する

②　健全で安定的な財務基盤を確立する

③　組織統治を強化する

④　杉山寮の移転を進めていく

→杉山寮の移転先として上弘部地区が候補地となり、『建設準備委員会』から『建設委員会』へと上弘部地区の区長をはじめ各種専門家の参画をいただき稼働した。

法人運営

◎理事会

回	開催日	議案	可否	理事及び監事出席
1	5.22	第 1 号議案　令和 5 年度すぎやま拠点区分事業報告書（案）並びに資金収支決算書（案）について。 第 2 号議案　建設準備委員会規程変更について 第 3 号議案　公印管理規程変更について 第 4 号議案　文書取扱規程変更について 第 5 号議案　定時評議員会の招集について 第 6 号議案　法令遵守の規程制定について	可 可 可 可 可 否	理事 5 人 監事 2 人
2	1.28	第 1 号議案　令和 6 年度すぎやま拠点区分資金収支一次補正予算書（案）について	可	理事 6 人 監事 2 人
3	3.19	第 1 号議案　令和 7 年度すぎやまの家拠点区分事業計画（案）並びに資金収支予算書（案）について	可	理事 6 人 監事 2 人

◎評議員会

回	開催日	議案	可否	評議員及監事出席
1	6.13	第 1 号議案　令和 5 年度すぎやま拠点区分事業報告(案)並びに資金収支決算書（案）について 第 2 号議案　社会福祉法人すぎやまの家役員等報酬規程の一覧表一部変更について	可 可	評議員 5 人 監事 2 人
2	1.30	第 1 号議案　令和 6 年度すぎやま拠点区分資金収支一次補正予算書（案）の審議と承認について	可	評議員 5 人 監事 2 人
3	3.19	第 1 号議案　令和 7 年度すぎやまの家拠点区分事業計画（案）並びに資金収支予算書（案）について	可	評議員 4 人 監事 2 人

◎監事監査

回	開催日	議題	監査意見
1	5.14	R5 年度事業および資金収支に関する監査の実施	2 監査の結果 （1） 事業報告等の監査結果 ① 事業報告等は、法令および定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。 ② 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。 （2） 計算関係書類及び財産目録の監査結果 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

◎評議員選任・解任委員会

回	開催月	議題	開催理由
1	無		

◎虐待防止委員会（外部委員出席日のみ記述）

回	開催日	議題	内容
1	7.17	改善計画進捗状況報告	アンケートの実施（紙面のみ） 初回 24 人中 23 人の回答 2 回 24 人中 24 人の回答 セルフチェックの実施（毎月） ※高島市からの指示を鑑みアンケートを実施。 ※理念・行動指針・倫理綱領の唱和をしていく。（毎月）
		苦情受付報告	① 利用者から 1 件 →解決後、同じ方から同じ苦情は出ていない。 ② 家族から 2 件 →1 件は寮長からの説明で納得・同意を得た。 →1 件は勘違いであったとの申し出を受け終結した。

◎建設委員会

回	開催日	議題	意見等
1	7.14	自己紹介 これまでの経緯及び今後の予定	下記 3 つの柱について話し合う。 〇設計→基本設計と造成の計画　ゆー空間へ依頼 〇土地確保→農地法５条　所有権を移転 〇跡地利用→今後検討
2	9.20	自己紹介 前回からの確認	高島市への訪問結果を報告する。 農振を外す受付時期 3 回/年(7.11.3 月)を確認する。 滋賀県への訪問結果を報告する。 理事長より杉山寮移転候補地選定理由書、図面、要覧の説明がある。 ゆー空間が作製した図面をたたき台として次回委員会を開催することに決まる。
3	2.28	前回からの確認	10 月測量完了 11 月末基本設計依頼 1 月契約完了（農振除外申請のための契約を締結） 図面について、ゆー空間より説明を受ける。 今回提示の図面を基にグループワークを実施する。 ゆー空間と職員間で再考が必要であるとの結論に至る。

行政監査

法人　無

日　時：令和　年　月　日　　　　　所轄庁：

種別	指摘事項等
文書指摘	
口頭指摘	
助言その他	

助成金

滋賀県、滋賀労働局、生命保険協会滋賀県協会様より助成をいただいた。

※補助金事業等収益明細書へ記載

寄付関係

寄付者	寄付内容
家族	【現金】500,000円
	【食品】米（もち米含）30㎏×4袋 野菜、果物、菓子、コーヒー、菓子等多数
取引業者	【現金】100,000円
	【食品】菓子、コーヒー等
法人役職員	【現金】4,700円
	【食品】砂糖、野菜、果物、菓子等多数

※米、もち米、野菜、果物、菓子については、給食等で提供してもらった。

大規模修繕

場所・内容	杉山ホーム・落雷による修理
財源	建物火災保険より補填あり
支払額	1,832,567円
施行会社	樽野工業、日立ビルシステム

※建屋アンテナに落雷の影響で通信回線などの館内機器に不具合が出て、エレベーターも動かず。エレベーターに関しては日常的な利用はしていなかったため利用者には不自由な生活をしていただくことなく過ごすことが出来た。

杉山寮・杉山ホーム事業報告

1. 支援に対する基本的姿勢

① 職員視点ではなく、利用者視点で考える

・利用者に必要な支援を明確にし、障害特性（自閉症等）など理解を改めておこなう→虐待防止委員会を実施。外部の方より理念の読み合わせをしてはどうかとの意見を頂き、毎月全体会議内で読み合わせを行った。

・利用者の主訴に耳を傾け、ニーズ把握し実行にうつす

・利用者・家族向け施設印象アンケートを実施する

→利用者の意見を組み入れながら、施設は 10.11 月に 4 班に分かれて日帰り旅行（芝政ワールド・松島水族館・養老ランド・映画村）を実施した。ホームは 10 月に須磨水族館と神戸市内の班別行動（観光マップ等で事前調べを各自で行った）を実施した。

→家族向けアンケート実施した。

② 安心安全のために環境整備をおこなう

・定期的に館内等の確認を行い、利用者が安心して生活できる環境づくりをおこなう

・災害及び感染症における BCP の訓練等研修を計画実施、見直しをおこなう

→寮は、洗濯機修理・機械室ポンプ交換・機械室配管取替・2 階間仕切り鍵交換・2 階男子棟エアコン交換など実施した。ホームは、7 月に落雷があり、ホーム内の配線部分、ネット環境、テレビジャック、エレベーター、給湯器などが使用できない状態となったが、幸い電気は使用できたため、生活に困ることはなかった。利用者にも混乱は生じなかった。

→法人全体で、今津病院感染管理認定看護師角田さんによる感染症研修会を 6 月 3 月実施した。

→災害時避難訓練として、大阪自彊館へ避難想定実施した。大阪自彊館内を見学し、今後の協力をお願いした。

2. 人材に対する基本的姿勢

① 人材の採用・育成・定着に向けた取組をおこなう

・職員個々で明確な目標設定を行い、数か月ごとに面談をおこなう

・SOS を早い段階で気づけるシステムづくりを構築する

・利用者だけでなく、職員の考え方を知り、互いに認める姿勢を築きあげる

→7 月末から 8 月にかけて予定していたが、ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症蔓延に伴い、9 月へ面談日を遅らせて職員との面談を実施した。

→毎月セルフチェックシート実施した。仕事の困りごと、不適切な支援の可能性を感じる事柄など 1 か月毎に各自で実施した。その中の不適切な支援の可能性を感じる事柄については、翌月全体会議内グループワークの議題として取り上げた。

② 中長期的な視点で職員構成を考える

・他法人等と連携し、採用活動につなげる関係性を構築する

・採用を行う上で、採用担当者と意見交換を行い、「ほしい人材」のイメージを確立する

→採用活動は年間通して実施。新規採用実績なし。

3. 地域に対する基本的姿勢

① 地域共生を考える

・杉山区等における清掃活動を行い、障害者理解につなげる

・学校との連携を図り、実習生受入れ、障害理解につなげる

→日々の歩行、散歩時にゴミ集めを実施した。またびわこ一斉清掃日に合わせて区内清掃を実施した。

→学校実習の受入れ体制は整えているが、学校からの申し出なく今年度実績はなし。

② 信頼と協力を得るため、地域で積極的に活動する

・移転先候補地域における農業生産の手伝いを行いながら、地域住民の方々に障害者理解を啓発する

・高島地域において、施設利用者の作品展を計画実施し、障害者理解の一役を担う

・SNS などを利用し、情報発信を定期的におこなう

→移転先候補地で実施された「かぼちゃづくり」は、畑作業をされている方の一部を手伝う。初めての畑作業ということで、家庭菜園のように簡単ではない農業の体験をさせてもらった。また周辺の草刈りも数か月に1度行った。ホームでは、家庭菜園であるが少し畑を行う。畑周辺で出会う地域の方とはあいさつ程度のかかわりをもった。

→弘川区の年2回掃除・防災訓練も参加。弘川区内新町の初寄りにも出席した。

→作品展は計画通り実施した。(詳細寮日中活動参照)

→ブログ及び機関紙は定期発行には至らず。

③ 他法人・関係機関・行政等との連携を図り、地域課題に寄与する

・高島市における地域生活支援拠点等事業に伴う杉山寮での役割を担っていく

・他法人・関係機関等との連携を行いながら、施設内での困りごと等発信、地域での困りごと等の把握に努める

・能登半島地震に係る支援を継続的におこなう

→自立支援協議会定例会および事務局会議に出席。会長の役目を頂き、それに付随する関係会議等に随時出席した。

→能登半島地震に係る派遣を2名した。

→『令和6年度滋賀県事業者の協働化・大規模化等による職場環境改善事業』高島ふくしデザインセンター構想に参画し、4 法人で職員採用を含めた高島市の課題を模索し始めた。

4. 経営に対する基本的姿勢

① 法令等を遵守する

・障害者虐待防止研修会をはじめ各種研修会に参加、研修会参加後、施設内に

おいて職員への伝達講習を実施する

→研修報告に記載

② 健全で安定的な財務基盤を確立する

・定期的な短期入所利用者を確保、空床となっている施設入所者の確保をおこなう

→寮の定員 30 人のところ 29 人で運営。1 月に入り高校 3 年 17 才利用者が体験につながった。ホームの定員 6 人のところ 5 人で運営。9 月以降数回体験につながった。

③ 組織統治を強化する

・会議および委員会等の目的を明確にする

・利用者からの苦情が対応できるシステムを構築する

→苦情 3 件受付（虐待防止委員会報告、詳細は苦情受付状況に記載）

④ 杉山寮の移転を進めていく

・建設準備委員会を設置し進めていく

→建設委員会を開催した。

●杉山寮

サービス利用の状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月末入所者数	29	29	29	28	29	29	28	29	29	29	29	29	346
入院	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
入所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※5 月 5 日～5 月 14 日まで腸閉塞疑いのため入院

※7 月 30 日～8 月 1 日まで腸閉塞疑いのため入院

※10 月 9 日～11 月 1 日まで膿胸のため入院

施設入所支援

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ利用者数	865	890	870	898	899	866	877	870	897	895	812	899	10538

生活介護

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ利用者数	612	641	619	645	654	617	630	617	645	644	561	667	7552

※施設入所支援利用 1 人の利用者は他事業所の生活介護を利用している。

短期入所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ利用者数	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5	0	0	7

職員の状況（採用、退職等）　　　　　　　　　　　　　　　人数（人）

	施設長	ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	事務員	生活支援員	看護職員	栄養士	医師	調理員	計
年度当初人数	1	1	2	16	2	1	1	4	28
増員	0	2	0	1	0	0	0	1	4
減員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	3	2	17	2	1	1	5	32

※サービス管理責任者は兼務　　　　　　　※医師は今津病院内科医師

利用者の状況（年齢、在所年数、障害、出身世帯との連携）　※3 月 31 日現在

性別＼年齢	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計	平均
男	1	1	3	6	6	2	0	0	19	45.5
女	0	0	0	4	3	2	1	0	10	55.1
計	1	1	3	10	9	4	1	0	29	48.7

人数（人）

性別/ 在所年数	1 未満	1 以上 3 未満	3 以上 5 未満	5 以上 10 未満	10 以上 15 未満	15 以上	計	平均
男	1	0	0	6	1	11	19	17.8
女	0	0	1	0	1	8	10	24.7
計	1	0	1	6	2	19	29	19.3

人数（人）

身体障害の状況	肢体不自由	聴覚言語障害	視覚障害	内部障害	移動機能障害	その他	計
男	0	1	0	0	1	0	2
女	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	0	0	1	0	2

人数（人）

知的障害の状況	A	A2	B		その他	計
男	13	5	1		0	19
女	8	0	1		1	10
計	21	5	2		1	29

人数（人）

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	計	平均
男	0	0	0	1	9	9	19	5.4
女	0	0	0	2	2	6	10	5.4
計	0	0	0	3	11	15	29	5.4

人数（人）

精神障害の状況	1 級	2 級	3 級				計
男	2	0	0				2
女	0	0	0				0
計	2	0	0				2

出身世帯との年間連携状況	0 回	1 回	2~5 回	6~11 回	12 回~	計
面会・外出	10	1	6	10	2	29
外泊	26	2	1	0	0	29

日中活動

① 鉄道リネン様よりの下請け事業を継続した。リネン活動班を中心に、月、火、水、金曜日を活動日とし、スリッパの乾燥作業、袋入れ作業に取り組んだ。

② ・リネン活動班とは別に週間プログラム(月曜/創作、火曜/リサイクル、水曜/音楽、木曜/衛生、金曜/運動)方式での活動を継続した。リネン活動班の作業が活発に行われたこともあり、週間プログラムとの両立は難しく、歩行や作業、個別課題への取り組みが中心となった。

・創作活動では、1 年を通し季節の飾りや行事の飾り作りを行った。また毎日飲む牛乳パックの空にビー玉を入れて色付けする「ビー玉アート」製作に力を入れた。2 月に今津東コミュニティーセンターの展示会場を借り、杉山寮単独の展示会を 2 週間開催した。

・リサイクル活動では、昨年度に引き続き高島市電気事業協会様より頂いている廃電線被覆ビニル剝き作業、ならびに黒田紙業への資源搬入を継続して取り組んだ。

・音楽活動では、月に 1 回湖西ワークショップに参加した。4～5 月までの間では月に 1 回カラオケの日を設けた。他 KOSEI 輝く芸術祭の発表部門でステージ発表を行った。

・衛生では、爪切りなど身の回りのケアに取り組んだ。

・運動活動では、月 3 回出張型運動遊びを取り入れたほか、玉入れ遊びや歩行など体力増強を目的とした活動の提供を行った。

・ホームにて借用している畑の一角を借りて、サツマイモ、大豆を始めて育てた他、上弘部のかぼちゃ畑の作業(マルチ張り、藁取り、収穫)を部分的に手伝った。

③ 毎日入浴の実施に努めた。入浴が難しい利用者については、足浴、手浴等を提供した。

行事の状況

日付	内容	参加者	
		施設利用者	ホーム利用者
4.21	お楽しみ会(顔合わせ会)	29	3
5.19	お楽しみ会(ピクニック)	29	3
6.1	開寮記念日、利用者還暦祝い、職員勤続表彰	29	4
7.17	お楽しみ会(家族会喫茶)	30	2
9.15	運動会	29	3
10.12	2024 パイロットウォーク	13	5
10.15	日帰り旅行(芝政ワールド)	8	0
10.30	日帰り旅行(養老ランド)	10	0

11.5	日帰り旅行（越前松島水族館）	7	0
11.15	日帰り旅行（太秦映画村）	4	0
12.9	KOSEI 輝くコンサート	15	0
12.9	みんなでたのしむコンサート	15	0
12.17	お楽しみ会（忘年会）	30	0
2.3	節分	28	0
3.16	懇談会	29	0

会議の状況

名称	参加者の職種	開催状況	主な内容
全体会議	全職員	毎月 1 回給与支給日に開催 09：30～11：30 全 12 回（次年度編成会議を除く）	・施設内虐待防止研修及び協議 ・その他
生活棟会議	生活支援員 看護職員 ｻｰﾋﾞｽ管理責任者 相談支援専門員	毎月第 2 金曜日 09：00～11：30 全 12 回（次年度編成会議を除く）	・直接支援内容に係る協議 ・その他
炊事会議	炊事主任 調理員	集まりやすい時間に協議 全 2 回	・行事食の検討 ・業務手順の見直し ・その他
運営会議	理事長 管理職	毎月 1 回以上実施 09:30～12:00　全 13 回	・法人と事業所の連携を目的とした会議
次年度編成会議	理事長 全職員	2 月～3 月 全体会 3 回他各部署会議	・令和 5 年度の総括 ・令和 6 年度の組織編成及び事業計画
給食会議	管理者 炊事主任 生活支援員 看護職員	必要時に随時開催 全 5 回	・自助具の検討 ・特食対応の協議 ・食事量の見直他
ｺｱﾒﾝﾊﾞｰ会議	生活支援員	3 か月に 1 度 全 4 回	・利用者支援の悩み等を基幹ｾﾝﾀｰｺﾝﾊﾟｽ職員へ相談等

サービス評価

令和 7 年 3 月にサービス評価委員で取り組む。内容については、滋賀県障害福祉課及び高島市障がい福祉課へ提出を行った。

研修報告

日付	研修	参加者
5.24	BCP　感染症研修（施設内研修）	15
6.25	感染症対策研修会～感染対策　手指衛生～	20

7.17	感染症対策研修会～感染対策　手指衛生～　（今津病院にて）	5
7.25	救急救命講習	25
8.29	協会けんぽ健康教室　コミュニケーションで組織を活性！	20
9.4	心のサポーター養成研修　第1回	1
9.25	すぎやまの家　防災研修	19
10.3-4	第60回全国知的障害福祉関係職員研修大会（福井大会）	2
10.22-23	第29回近畿地区知的障害関係施設職員研修会	4
10.31	協会けんぽ健康教室　自分の機嫌は自分でとる！セルフケア	16
11.9	「避難所ってどんなとこ？」研修会	1
11.14	心のサポーター養成研修　第2回	6
11.27	令和6年度滋賀県障害者虐待防止・権利擁護研修会　南部	1
11.27	BCP　垂直訓練及び施設内備品等確認。非常食試食。今津西地域福祉避難所見学（大阪自彊館協力）	15
11.30	抱え上げない介護研修	1
11.30	「芸術活動支援のためのプログラム」オンライン研修	1
12.4	令和6年度滋賀県障害者虐待防止・権利擁護研修会　北部	1
12.5	令和6年度高島市福祉施設協議会研修会	3
12.5	令和6年度滋賀県専門コース別研修【意思決定支援】	1
12.11	滋社協「苦情対応の初期対応と苦情解決能力と実践力の強化」	1
12.12	令和6年度滋賀県児童成人福祉施設協議会　事務職情報交換会	1
12.12	令和6年度強度行動障害支援者養成研修　実践研修①	1
12.12	令和6年度滋賀県サビ児管更新研修　①	1
12.13	令和6年度強度行動障害支援者養成研修　実践研修②	1
12.13	令和6年度滋賀県サビ児管更新研修　②	1
1.13	第1回　高島ふくしデザインセンター構想　研究会	3
1.16	令和6年度　「施設内虐待防止へのアプローチ！中堅職員編」	2
1.20-21	「ふくしデザインセンター構想」現地視察　武蔵野会	3
1.29	高島ふくしデザインセンター構想　生産性向上施設内面談	2
1.30	第2回　高島ふくしデザインセンター構想　生産性向上研修会	3
2.3	第3回　高島ふくしデザインセンター構想　研究会	3
2.4	新人職員研修	1
2.5	ふくしデザイン会議（武蔵野会）	2
2.27	感染症対策研修会　～院内感染対策研修～　（今津病院にて）	4
3.13	感染症対策研修会　～院内感染対策研修～	16

※　報告書（研修・出張等）ファイルあり

●5月24日、BCP（感染症）：対象者をイメージした訓練を行った。

●6月25日、BCP（感染症）：今津病院の出前講座『感染対策と手指衛生』を開催した。

●7月25日、救急救命講習を開催した。

●9月25日、BCP（風水害）：高島市政策部危機管理局の出前講座『災害時の避難方法について』を開催した。又、非常用物資の点検を行った。
●11月27日、BCP（風水害）：垂直避難訓練を実施したほか防災食の実食、角川区の福祉避難所（大阪自彊館）の見学等を行った。
●3月13日、BCP（感染症）：今津病院の出前講座『院内感染対策』を開催した。
●滋賀県主催　虐待防止・権利擁護研修、2人参加
●県社協主催　虐待防止中堅研修、2人参加

苦情受付状況について

苦情受付は3件

① 利用者より、鉄道リネンのスリッパ活動に特定の職員が連れて行ってくれないとの話があり、利用者と面談を行い、公用車に乗れる人数が決まっている事や利用者同士の相性等の話をして理解をしてもらった。
② 家族より、話が出来ない利用者に対し、目に怪我を負わせてしまったことを家族へ連絡を取ったが、伝え方に問題があり、家族より総合病院へ連れて行かないのかとの話があった。施設長として連絡を取り説明を行い理解してもらった。その後家族会にて緊急受診時の連絡方法を取り決めた。
③ 家族より、帰省中に利用者の足を診て、疥癬ではないかとの連絡があり、皮膚科受診し、水虫であるとの診断を受け、家族へ説明し理解してもらった。

家族との交流

≪家族会≫　出席人数（人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
総会・懇談会	12	15	10	14	12	14	14	13	9	0	0	17	130
面会	14	16	13	13	12	14	14	16	9	0	0	17	133

家族への報告は、毎月の近況報告および活動等写真にて様子を伝えた。
家族会開催時、家族会共催でお楽しみ会を実施した。

地域との交流

≪ボランティア≫　実施回数（回）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
傾聴	1	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	6
墨活動	2	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	0	7
今津民生児童委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
音楽ワークショップ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
出張型運動遊び	3	3	1	3	1	3	2	3	3	3	3	3	31

傾聴ボランティア…2-3人。傾聴ボランティアの体調不良等で11月より中断している。
音楽ワークショップ…講師に毎月1回施設に来ていただき実施していたが、7月よりドリームを会場とした合同開催になった。
出張型運動遊び…月3回（基本第二、第四金曜日と第二火曜日）実施した。
墨活動…評議員伊妻氏による墨を使った活動を実施した。

看護の状況（感染症予防対策、定期健康診断の実施状況等）

≪受診状況≫

延べ受診者596人	精神科	歯科	皮膚科	内科	整形外科	泌尿器科	リンパ外科	小児科
	252	150	95	26	30	16	0	4
	乳腺外来	外科	消化器内科	消化器外科	呼吸器科	眼科	脳外科	耳鼻咽喉科
	2	0	4	0	4	7	0	6

※1人の利用者様が複数の受診にまたがってきているケースが増えてきている。

≪事故報告書一覧≫

	内容	2023	2024	増減	原因・理由等
1	転倒事故	15	10	-5	
2	擦傷切傷	226	110	-116	該当利用者が地域移行となったため
3	打撲内出血	123	92	-31	
4	発疹ただれ	12	4	-8	
5	皮膚炎発赤	35	17	18	保湿ケア
6	噛み跡	34	39	5	
7	爪剥がれ	13	2	-11	
8	火傷熱傷	0	3	3	
9	自傷	32	9	-23	該当利用者が地域移行となったため
10	誤嚥・誤飲・誤食	2	1	-1	
11	飲み忘れ	4	10	6	飲みこぼし多数
12	食中毒	0	0	0	
13	アレルギー	0	0	0	
14	所在不明	1	1	0	
15	てんかん発作	3	7	4	
16	その他	17	13	-4	1-15に該当しない不明な傷
17	インシデント	11	3	-8	支援の向上
18	ホールディング	18	9	-9	医療行為に対しての理解が深まった
19	物損	2	10	8	利用者支援の難しさ
20	県報告	10	9	-1	下記記載
	合計	558	349	209	支援の向上。

事故報告書の様式変更により大幅の減少となる。

≪事故報告書重複件数≫　重複内容

擦傷・切傷、打撲・内出血痕	11件	擦傷・切傷、自傷	7件
転倒・転落、擦傷・切傷、打撲内出血痕	6件	転倒・転落、打撲内出血痕	3件
擦傷・切傷、皮膚炎・発赤	2件	擦傷・切傷、噛み跡	1件
転倒・転落、擦傷・切傷	1件	発疹・ただれ、皮膚炎・発赤	1件
		合計　32　件	

≪県報告（緊急受診対応）≫

	日付	病院名	受診時症状
1	5.2	マキノ病院	公用車に乗る時、ﾄﾞｱに指を挟む。通所先からの帰寮時左手中指の爪周辺と第二関節に変色が見られた為ﾏｷﾉ病院緊急受診。ﾚﾝﾄｹﾞﾝ撮影するも骨折はなく打撲であった。
2	5.4	高島市民病院	腹痛の訴えがあった為、ﾄｲﾚ誘導するも排便なし。公用車で受診を考えていた時に嘔吐があり、救急車要請する。造影 CT の結果、胃腸腫れ・緊満(+)手術の必要はないが、入院処置が必要との事。排便の確認が取れた為、5.14 退院となる。
3	7.30	高島市民病院	起床時に嘔吐・失便あり。発熱なし。今津病院受診。ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ・新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ・ﾉﾛｳｲﾙｽ共に陰性。ﾚﾝﾄｹﾞﾝ撮影するも特に問題なし。帰寮となるが、再び嘔吐あり。高島市民病院へ緊急受診となる。ﾚﾝﾄｹﾞﾝ撮影では細かい所はわからない為、CT 撮影しましょうとの事。腸閉塞のため入院となる。8.1 退院となる。
4	7.31 ～8.7	今津病院	新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽによる発熱の為。計 22 人の利用者が新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ陽性、2 人が陰性となった。
5	10.4	マキノ病院	10.3 の昼頃より右手第 3・4 指内出血あり。ﾏｷﾉ病院緊急受診。ﾚﾝﾄｹﾞﾝ撮影し、右手第 4 指第 1 関節が骨折していた。手術も検討されたが、本人安静が出来ない為、様子観察にしましょうとの事で帰寮している。
6	10.9	高島市民病院	呼吸荒く、$SPO_2$92%であった為、高島市民病院へ緊急受診となる。ﾚﾝﾄｹﾞﾝ撮影した結果、左肺が真っ白に映っているとの事。採血の結果、炎症反応も高く、入院の対応となる。11.1 退院となる。
7	12.18	高島市民病院	・発作あり。救急車要請し高島市民病院へ搬送される。採血・ﾊﾞｲﾀﾙ特に問題なく帰寮しても大丈夫との事。
8	2.14	小浜病院	・不穏になった本人が壁のタイルを蹴り左足親指側の側面 3ｃｍ程擦傷する。圧迫止血するも止まらず緊急受診し 3 針縫合する。2.22 抜糸となり終了となる。
9	3.4	高島市民病院	・不穏になった本人がｶﾞﾗｽを殴り右手甲側第 3.4 指関節部切傷、手掌側第 1 指爪周辺 1 ㎝程切傷、第 1 指付け根部 3～4 ㎝深さ 0.5～0.8 ㎝切傷。出血止まらず高島市民病院へ緊急受診となり縫合する。3.13 みやもと整形外科ｸﾘﾆｯｸへ一部抜糸する。3.18 みやもと整形外科ｸﾘﾆｯｸ全て抜糸となり終了となる。

・緊急時に各職員とも、事故発生・発見時に冷静かつ迅速に利用者に適切な対処が出来ていた。一部、再発防止に向けた対策を考え実施された。

・見守りカメラを導入したことで、確認を行うことが出来ている。またカメラ確認を行うことで、再発防止を考える一助となっている。

健康診断	12.8	滋賀保健研究ｾﾝﾀｰにて実施
健康相談	第１金曜日 午前中	嘱託医（今津病院　佐々木医師・安藤医師）にて実施
歯科検診	9.5	歯科医師による巡回検診を実施
ﾌﾞﾗｯｼﾝｸﾞ指導	6.26	口腔衛生ｾﾝﾀｰにて実施 新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染拡大防止のため１回のみ
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ予防接種	11.28	嶺南こころの病院高橋医師にて実施
病害虫駆除	１回目 6.13 ２回目 10.30	ｺﾞｷﾌﾞﾘ､ﾈｽﾞﾐに対する残留噴霧処理を有川製薬にて実施

※新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症が 5 類感染症に引き下げられたとはいえ病院等ではﾏｽｸの着用が必要である。受診利用者についてもﾏｽｸ着用をできるだけ実施している。

防災訓練、消防用設備等の保守点検状況

消防訓練		12.5　　3.25	2 回実施
保守点検	シガ技研	4.5　　10.8	消防設備、機器点検実施
	東山	11 月	地下ﾀﾝｸ貯蔵所点検実施　異常なし
	クマリフト	毎月	階段昇降機定期点検および老朽化による修繕実施
	滋賀県生活環境事業協会	4 月	浄化槽法定検査実施　異常なし

給食の状況

	食堂利用に関して
給食利用人員	・施設利用者29人。他に短期入所利用者、ホーム利用者、家族、職員、法人役員が利用している。
食堂利用可能人員	32人
食堂利用状況	・感染症対策の一環として、6 人掛けテーブルを基本 4 人掛けとして使用し、食事を摂れる一人当たりのスペースを広くとっている。
食堂の環境づくり	・個々が食事を摂りやすいよう、椅子に座布団やｸｯｼｮﾝ、利用者が創作した織物を使用している。また、ﾃｰﾌﾞﾙの透明ｼｰﾄの下には行事で作成したｶｰﾄﾞや、他利用者より貰った手紙を置き、自分のﾊﾟｰｿﾅﾙｽﾍﾟｰｽとして安心できる環境を作っている。 ・食堂の環境に関して、1週間毎に写真を添付した献立表を作成し掲示している。利用者の意見を基本に時随時行っている。 ・新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染予防対策として、飛沫防止ﾊﾟﾈﾙの設置を行っていたが、第5類に変更に伴い撤去する。ただし、視線が気になる方には不透明な飛沫防止ﾊﾟﾈﾙの継続を行い、安心して食事を行える環境づくりを提供している。
身体状況に応じた食事のための自助具等の活用	・必要に応じて自助ｽﾌﾟｰﾝ､ｽﾄﾛｰ、傾斜皿、食事用ｴﾌﾟﾛﾝ、皿の滑り止めﾏｯﾄ等を使用している。また特別食(減塩食、制限食、刻み食、増量食)の提供もしている。

食事介助について	利用者の高齢化が進む中、リスクの高い利用者に重点を置き摂取状況を把握した。多職種連携を図り、食事の形態を変更し対応した。個人にあった食事量、食事形態の確認、見直しを随時行っている。	
行事食について	4月7月	利用者、家族　喫茶、ピザ窯を利用してピザ
	5.19	ﾋﾟｸﾆｯｸ ﾋﾟｸﾆｯｸ弁当　ご家族も参加 梅干ごはん・唐揚げ（2種）・だしまき・ｳｲﾝﾅｰ・ﾎﾟﾃﾄｻﾗﾀﾞ小鮎の南蛮漬け・ﾌﾙｰﾂ
	6.1	開寮記念日　祝膳を外注依頼の為、ごはん・すましのみ調理
	9.15	運動会　家族も参加　　　　牛すじｶﾚｰ・豚汁・春雨ｻﾗﾀﾞ
	12.15	忘年会　ご家族も参加 12時:ｵﾑﾗｲｽ･ﾏﾘﾈ･ｽｺｯﾁｴｯｸﾞ･ﾁｷﾝﾅｹﾞｯﾄ･ﾌﾗｲ･ｻﾝﾄﾞｲｯﾁ･ﾎﾟﾃﾄｻﾗﾀﾞ･ﾐﾈｽﾄﾛｰﾈ･ﾌﾙｰﾂ 15時:手作りｹｰｷ　飲み物
	12.21	ｸﾘｽﾏｽ会　　　15時:ｾﾞﾘｰ
	12.31	大晦日　年越しそば
	1.1	おせち　ちらし･黒豆･合鴨･栗きんとん･たたきごぼう 柿なます・伊達巻･八幡巻き･煮しめ･すまし
	1.15	新年会　ごはん・白和え・炊き合わせ・だし巻き 鮭の醤油焼・トリ天・八幡巻き・なます・豆煮・ﾌﾙｰﾂ
	2.2	節分　巻きずし・いなり・五目豆煮・鰯甘露煮・味噌汁
	3.3	ひな祭り　ちらし寿司・煮物・梅なます

●杉山ホーム

サービス利用の状況　※実人員記載

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月末入所者数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
体験宿泊	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	4

共同生活援助

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ利用者数	150	155	150	155	155	155	151	157	155	150	147	155	1835

※体験利用者延べ人数は増員、帰省（9月12月1月）の帰省延べ人数は減員

※帰省 9/20-23　1人　12/28-1/5　1人　1/11-13　1人

職員の状況（採用、退職等）　人数（人）

	施設長	ｻｰﾋﾞｽ管理責任者	事務員	世話人・生活支援員	計
年度当初人数	1	1	0	3	5
増員	0	0	0	0	0
減員	0	0	0	0	0
計	1	1	0	3	5

利用者の状況（年齢、在所年数、障害、出身世帯との連携）　※3 月 31 日現在

性別＼年齢	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~	計	平均
男	0	0	0	1	0	0	0	0	1	45
女	0	1	0	2	0	1	0	0	4	46
計	0	1	0	3	0	1	0	0	5	46

性別＼在所年数	1 未満	1 以上 3 未満	3 以上 5 未満	5 以上 10 未満	10 以上 15 未満	15 以上	計	平均
男	0	0	0	0	1	0	1	14
女	0	1	1	0	0	2	4	17.3
計	0	1	1	0	1	2	5	16.5

障害支援区分	1	2	3	4	5	6	計	平均
男	0	0	0	0	1	0	1	5.0
女	0	3	0	0	1	0	4	2.8
計	0	3	0	0	2	0	5	3.2

出身世帯との年間連携状況	0 回	1 回	2~5 回	6~11 回	12 回~	計
面会・外出	3	0	0	1	1	5
外泊	3	0	1	0	0	5

家族への報告は、毎月の近況報告および活動等写真にて様子を伝えた。

休日（余暇）の状況

○昨年に引き続き畑を借りて作物を育てた。沢山収穫出来野菜も有り、食事の一品として提供、保存することで長期食する事が出来た。休日には作物畑作業利用者と共に畑作業に多くの時間を費やすことできず）やホーム敷地内掃除、公園での散歩など少しでも多く屋外に出て、活動が出来るように心がけた。

○SO には月 1 回のペースで 3 人参加、内 1 人は大会に出場。

○買い物外出、外食を職員付添支援で実施。また個人で市外へ外出するなど、休日を楽しむことが増えた。

○土日の献立に季節のメニュー、利用者希望のセレクトメニューやお好み焼きを自分で焼くなど、楽しめるような機会を作った。利用者の誕生月には希望のメニューを聞き取り週末に提供し、希望があれば当日にケーキを準備しお祝いをした。

○利用者 1 人から遺言書作成の希望があり。行政等に相談を行い作成した。

行事（地域交流を含む）の状況

弘川区内及び市内での活動参加

日付	内容	参加者
4.14	区の掃除、	3
4.21	ふじみ祭りよさこい演舞	1
6.1	よさこい演舞	1
6.9	区の掃除	2
9.29	区の掃除	2
10.12	オリーブ摘み取り	1
11.10	区防災訓練	4
12.14	よさこい演舞	1
2.16	選挙	5

ホーム独自行事

日付	内容	参加者
4.14	花見、喫茶外出	4
4.27	お弁当外食	3
4.28	畑作業、苗植え	2
6.2	買い物（サーキュレーター、布団）	2
7.1	買い物（携帯）	1
7.15	誕生日買い物	4
8.25	買い物外出（ビバシティ）	5
10.15	ホーム神戸日帰り旅行	5
11.10	外出　箱館山	4
1.1	初詣	4
1.1	正月遊び	4
3.8	ホーム買い出し	3

杉山寮合同行事

4.21	寮お楽しみ会	3
5.19	寮お楽しみ会　ピクニック	3
6.1	開寮記念行事	4
6.16	家族会大掃除	4
7.21	家族会	1
9.15	寮運動会	4
9.29	コンサート	4
10.6	畑芋掘り	3
10.12	パイロットウォーク	4
11.17	大掃除	4
12.15	寮お楽しみ会	

苦情受付状況について

苦情受付は 0 件

※日常的に希望や不満を傾聴し、買い物、外出を増やすなど、本人の希望を叶える為各関係機関に取り次ぎ解決に努めた。

会議の状況

名称	参加者の職種	開催状況	主な内容
ホーム 会議	世話人兼生活支援員 管理者	全 11 回	利用者の状態報告及び支援について

※1 か月だけ、職員体制が整わず、実施を見合わせることがあった。見合わせた月は、書面及び口頭で対応をした。

サービス評価

令和 7 年 3 月にサービス評価委員で取り組む。内容については、滋賀県障害福祉課及び高島市障がい福祉課へ提出を行った。

研修報告

日付	研修	参加者
6.25	感染症施設内研修 1 回目	3
7.25	救急法講習会	3
8.7	一般社団法人滋賀県医師会滋賀県　感染制御リーダー養成研修 1	1
8.27	一般社団法人滋賀県医師会滋賀県　感染制御リーダー養成研修 2	1
8.29	全国保険協会滋賀支部　健康教室 1 回目ストレスケア研修会	3
9.4	高島市自立支援協議会障碍者施設従事者等ストレスケア研修	2
9.12-13	全国グループホーム等研修　近畿地区大会in兵庫	1
9.19	一般社団法人滋賀県医師会滋賀県　感染制御リーダー養成研修 3	1
10.31	全国保険協会滋賀支部　健康教室 2 回目	3
11.14	自立支援協議会　ここサポストレスコーピングによるセルフケア	2
3.13	感染症施設内研修 2 回目	3

※　報告書（研修・出張等）ファイルあり

事故報告書一覧

① 生活費と利用者小遣い間での両替行う最終確認に見落としがあり、差異が出るといった事案あり。

対応としては、利用者小遣いは、1 週間に 1 度は 2 名の職員で小遣いを確認する。生活費は、両替を行う際は、他の仕事の合間にせず、お金を合わせていく。

② 怪我等看護の状況（感染症予防対策、定期健康診断の実施状況等）

	内容	2023	2024	増減	原因理由
1	転倒転落	0	3	+3	1 と 3 が同じ
2	擦傷切傷	0	1	+1	1 と 2 が同じ
3	打撲骨折	1	2	+1	1 と 3 が同じ
4	発疹皮膚炎	8	13	+5	意識向上、早期発見につながり増

5	火傷熱傷	0	0	0	
6	誤薬	0	1	+1	処方誤りに気づかず1週間服薬せず
7	食中毒感染症	0	0	0	
8	所在不明	0	0	0	
9	てんかん	0	0	0	
10	インシデント	4	2	-2	飛び出し
11	ホールディング	0	0	0	
12	異物混入	0	0	0	
13	合計	13	22	9	

緊急受診対応

日付	病院名	受診時症状
9.10	やすはら眼科	痛み、目いぼ
3.11	高島市民病院	声枯れ、のど痛み
3.17	ﾏｷﾉ病院	転倒により救急搬送、肋骨骨折
3.17	藤井医院	鼻水、声枯れ

・多機能型簡易居室を利用し、ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染利用者対応を実施した。

健康診断	施設内健診1人 就労利用者4人については、各事業所および職場にて健診を実施	
健康相談	不安があれば都度支援員が聞き取りを行い適宜対応している。	
歯科検診	歯科へ受診を定期的に実施	
ﾌﾞﾗｯｼﾝｸﾞ指導	定期的に歯科へ受診を行い、義歯調整、口腔内清掃実施をしている	
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞﾜｸﾁﾝ 予防接種	施設内集団接種（利用者5人）	11.28
HVP ﾜｸﾁﾝ接種	高島市民病院	7.18（2回目）　1.30（3回目）

感染症予防対策

感染症の疑いがある時に随時実施	次亜塩素酸ﾅﾄﾘｳﾑ消毒：ﾃｰﾌﾞﾙ、取っ手等 ﾃｰﾌﾞﾙにﾊﾟｰﾃｰｼｮﾝ設置 感染の疑い、感染者：個室隔離、使い捨て食器使用
日々利用者実施	ﾊﾝﾄﾞｿｰﾌﾟﾎﾞﾄﾙ、洗浄乾燥後詰め替え行う
帰宅時	手指消毒、うがい、手洗い、ﾏｽｸの交換
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ内	ﾏｽｸ着用（個人居室内はﾏｽｸを外すこと可）
食事提供直前	手洗い、手指消毒

施設内点検

保守点検	シガ技研	4.5　10.8	ﾎｰﾑの消火器交換、脱衣場の感知器交換

令和６年度 相談支援事業・ひろかわ 事業報告

１. 支援に対する基本的姿勢

① 職員視点ではなく、利用者視点で考える

・本人及び家族等に対する丁寧な聞き取り及び再アセスメントを実施する

→モニタリング月に合わせて順次本人への聞き取りを行った。また事業所会議に出席して支援者からも聞き取りを行った。

② 安心安全のための環境整備をおこなう

・BCP（災害）の見直しをおこなう

→防災訓練の結果を基により現実的なプランを法人防災リーダーが作成中である。

２. 人材に対する基本的姿勢

① 人材の採用・育成・定着に向けた取組をおこなう

・障害者虐待防止研修の企画をおこなう

→5 月 24 日、発達支援に係る試案を杉山寮主任生活支援員へ回付した。

・ハラスメント防止研修の企画をおこなう

→8 月 29 日、オンライン講座『コミュニケーションで組織を活性！ 心理的安全性を取り入れよう』を開催した。

→10 月 31 日、オンライン講座『自分の機嫌は自分でとる！ 見つけようストレス解消法（セルフケア)』を開催した。

・救急救命講習の企画をおこなう

→7 月 25 日、救急救命講習を開催した。

・BCP（災害）訓練の実施をおこなう

→5 月 24 日、感染症対象者をイメージした訓練

→6 月 25 日、今津病院の出前講座『感染対策と手指衛生』を開催した。

→9 月 25 日、高島市政策部危機管理局の出前講座『災害時の避難方法について』を開催した。又、非常用物資の点検を行った。

→11 月 27 日、BCP（風水害）：垂直避難訓練を実施したほか防災食の実食、角川区の福祉避難所（大阪自彊館）の見学等を行った。

・相談支援専門員の養成をおこなう

→伊庭を派遣する予定であったが募集期間を逸してしまった。

② 中長期的な視点で職員構成を考える

・採用担当者との意見交換を実施する

→運営会議の場で随時発言した。

３. 地域に対する基本的姿勢

① 地域共生を考える

・杉山寮及び杉山ホーム利用者を始めとした地域移行を推進する

→杉山寮利用者 1 人よりグループホームからの通所希望を聞き取ったが、話の信ぴょう性に疑義が残ったため、今後ご家族ともども意向を確認していく段取りである。

② 信頼と協力を得るため、地域で積極的に活動する

・対外的な役割及び責任を果たす

→3.③参照

③ 他法人・関係機関・行政等との連携を図り、地域課題に寄与する

・杉山寮、杉山ホームを始めとするサービス実施機関と情報を共有する

→生活棟会議をモニタリング会議（サービス提供事業所職員からの聞き取り）と位置付け、作成したモニタリング報告書等を随時ファイリングして情報提供した。

・高島市障がい者自立支援協議会、相談支援連絡会、高島市地域生活支援拠点等事業運営会議、滋賀県知ハンディをもつ人の福祉協会、スペシャルオリンピックス日本滋賀高島と協力関係を維持する

→高島市障がい者自立支援協議会について、定例会及び全体会に出席した。

→相談支援連絡会（隔月）について、ほとんどの会議に出席した。

→高島市地域生活支援拠点等事業運営会議について、2月10日の会議に出席した。

→滋賀県知ハンディをもつ人の福祉協会について、10月22～23日、長浜市で開催された近畿地区知的障害関係施設職員研修会に実行委員として参画した。

→スペシャルオリンピックスについて、各地で開催された大会に合うリートを引率した。

●6月29日、SON近畿ブロック卓球競技会（枚方市）、アスリート4人

●9月7日、SON京都卓球競技会（京都市）、アスリート7人

●9月17日、コーチ・スタッフ会議＆合同練習会（彦根市）、アスリート5人

●10月6日、SON滋賀夏季地区大会（彦根市）、アスリート6人

・障害児相談にも積極的に対応する

→5月7日、障がい児相談連絡会に出席した。

→2月17日、計画相談受け入れに関する意見交換会に出席した。

・杉山寮、杉山ホームの補助的支援をおこなう

→各自が生活支援員あるいは夜間支援員を兼務するなどし、精力的に協力できた。

・能登半島地震に係る被災地支援を継続的におこなう

→令和6年4月13日(土)～18日(木)社会福祉法人佛子園が経営する輪島KABURET（カブーレ）福祉避難所＝輪島市役所内「カフェ丹」で避難所用弁当の盛込み等を行った。

４.経営に対する基本的姿勢

① 法令等を遵守する

・遅滞なくサービス等利用計画及びモニタリング報告書を作成送付する

→4月24日、封筒宛名と在中文書の不一致が発覚した。本件は個人情報上の重大事故と受け止め、直ちに謝罪するとともに、個人情報に係る文書発送にあたっては、職員2人で当該事務に携わることを主眼とした今後の方針を取り決めた。

→上記のほかご家族の同意署名に日にちを要したケースが数件あった。

② 健全で安定的な財務基盤を確立する

・地域移行支援の事業申請を検討する

→未達成（事務量の増大を鑑みた結果見送り）

・他相談支援事業所担当の杉山寮及び杉山ホーム利用者について引継を検討する

→未達成（草津市と東近江市の利用者のモニタリングに合わせて受入れ用意を伝えたが回答なし）

・障害児相談に対応する

→5 月 7 日、障がい児相談連絡会に出席した。

・その他

→特別地域加算及び行動点数の確認を随時行った。

→7 月以降 3 人の地域在住者について、新規に計画相談支援を開始することとした。

→サービス提供時モニタリング加算を 2 件算定した。

→サービスの実績は下表参照

サービス	令和 5 年度末実績 （うち児童）	令和 6 年度末実績 （うち児童）
利用対象者	27 人（0 人）	31 人（0 人）
サービス等利用計画の作成	11 件（0 件）	24 件（0 件）
モニタリング報告書の作成	63 件（0 件）	73 件（0 件）

③ 組織統治を強化する

・分掌の明確化をおこなう

→「令和 6 年度職務分掌」策定にあたり草案を提出した。

・業務進捗具合の確認をおこなう

→計画・モニタリングに係る年間予定表を作成し、漏れや遅滞がないか随時確認を行った。